

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

かくれんぼで、倉のすみにもぐりこんだ東一（とういち）君がランプを持って出て来た。

それはめずらしい形のランプであった。八十センチぐらいの太い竹のつが台になっていて、その上にちよっぴり火のともる部分がくっついていて、そしてほやは、細いガラスの筒であった。はじめて見るものにはランプとは思えないほどだった。

そこでみんなは、昔の鉄砲とまちがえてしまった。

「何だア、鉄砲かア」と鬼の宗八（そうはち）君はいった。

東一君のおじいさんも、しばらくそれが何だかわからなかった。眼鏡

ごしにじっと見ていてから、はじめてわかったのである。

ランプであることがわかると、東一君のおじいさんはこういって

子供たちを①しかりはじめた。

「これから、お前たちは何を持出すか。まことに子供というもののは、だまつて遊ばせておけば何を持出すやらのわからん、油断もすきもない、ぬすつとねこのようなものだ。これから、それはこへ持つて来て、お前たちは外へ行って遊んで来い。外に行けば、電信柱でも何でも遊ぶものはいくらでもあるに」

こうしてしかられると子供ははじめて、自分がよくない行いをしたことがわかるのである。そこで、ランプを持出した東一君はもちろんのこと、何も持出さなかつた近所の子供たちも、自分たちみんなで悪いことをしたような顔をして、すこすこと外の道へ出ていった。

外には、春の昼の風が、ときおり道のほこりを吹立ててすぎ、のろのろと半車が通つたあとを、白いちようがいそがしそくに通つてゆくこともあった。なるほど電信柱があつちこつちに立っている。しかし②子供たちは電信柱なんかで遊びはしなかつた。大人が、こうして遊ぶといつたことを、いわれたままに遊ぶというのは何となくばかげているように子供には思えるのである。

そこで子供たちは、ポケットの中のラムネ玉をカチカチいわせながら、広場の方へとんでいった。そしてまもなく自分たちの遊びで、さつきのランプのことは忘れてしまった。

【新美 南吉「おじいさんのランプ」より】

問1 線部①しかりはじめた とありますが、なぜ、おじいさんは子供たちをしかりはじめたのですか。一つ選りなさい。

ア 遊んではいけないところで遊んでいたから。

イ ランプをこわしてしまつたから。

ウ かつてにランプを持出したから。

エ ランプと鉄砲をまちがえたから。



問2 線部②子供たちは電信柱なんかで遊びはしなかつた とありますが、なぜ、子供たちは電信柱で遊ばなかつたのですか。次の文にあてはまるように、六文字で書き抜きなさい。



大人が、
といつたことを、いわれたままに遊ぶというのは何となくばかげているように子供には思えるのである。